

事業者排出量削減報告書

住所（法人にあっては、主たる事務所の所在地）	京都府京都市南区吉祥院中島町29								
氏名（法人にあっては、名称及び代表者の氏名）	株式会社 ワコールホールディングス 代表取締役社長 塚本 能交								
事業者の主たる業種	繊維製品製造業								
該当する事業者要件	<input checked="" type="checkbox"/> 京都府地球温暖化対策条例施行規則第10条第1号該当事業者（大規模エネルギー使用事業者（原油に換算して1,500キロリットル以上）） <input type="checkbox"/> 京都府地球温暖化対策条例施行規則第10条第2号又は第3号該当事業者（大規模運送事業者（トラック又はバス100台以上/タクシー150台以上/鉄道車両150両以上）） <input type="checkbox"/> 京都府地球温暖化対策条例施行規則第10条第4号該当事業者（その他の温室効果ガスの大規模排出事業者（二酸化炭素に換算して3,000トン以上））								
計画期間	平成20年4月～平成23年3月								
基本方針	電力、ガス、ガソリン等の使用量を削減し、CO ₂ 排出量8%削減を目指す。								
推進体制	IS014001の環境マネジメントシステムを基本に、上記基本方針に基づいた目標を設定し、進捗管理をする。								
環境マネジメントシステム名称	IS014001								
	適用範囲	全事業所							
	取得年月日	2001年2月24日							
	取得年月日	2001年2月24日							
年度ごとの具体的な取組及び措置の状況	年度	設備、対象、工程等	措置内容						
	20～22	全事業所	適正冷暖房の実施と徹底（夏28℃、冬20℃）						
	20～22	全事業所	冷暖房運転の開始・終了時間の検討、土曜日の対応など						
	20～22	全事業所	設備・機器更新の際に省エネ仕様のものへ切り替え						
温室効果ガスの排出量等	排出区分	基準年度（実績） （19）年度 （二酸化炭素換算）	目標年度（計画） （22）年度 （二酸化炭素換算）	増減率 （計画）	報告年度（実績） （22）年度 （二酸化炭素換算）	増減率 （実績）			
	A 事業所等排出区分	3,079.6 t	2,830.4 t	-8.1 %	2,863.3 t	-7.0 %			
	B 輸送車両排出区分	t	t	%	t	%			
	C その他排出区分	t	t	%	t	%			
	排出合計	*1 3,079.6 t	*2 2,830.4 t	-8.1 %	*4 2,863.3 t	-7.0 %			
	実績に対する自己評価	<ul style="list-style-type: none"> 毎月16日のライトダウンや退社時の部門消灯の徹底など、地道な取り組みを継続。 夏期の記録的な猛暑によりガス使用量が大幅に増えた。 当該年度においては、省エネ仕様の設備・機器への更新はなし。 							
原単位当たりの温室効果ガス排出量等	用途区分	原単位の指標	基準年度（実績）	目標年度（計画）	増減率（計画）	報告年度（実績）	増減率（実績）		
	本社ビル（事務所）	二酸化炭素換算 (32,472㎡)	0.0580 t-CO ₂ /㎡	0.0534 t-CO ₂ /㎡	-7.9 %	0.0526 t-CO ₂ /㎡	-9.3 %		
	京都ビル（事務所）	二酸化炭素換算 (13,054㎡)	0.0354 t-CO ₂ /㎡	0.0328 t-CO ₂ /㎡	-7.3 %	0.0350 t-CO ₂ /㎡	-1.1 %		
	ウイング流通センター北館	二酸化炭素換算 (17,000㎡)	0.0306 t-CO ₂ /㎡	0.0277 t-CO ₂ /㎡	-9.5 %	0.0274 t-CO ₂ /㎡	-10.5 %		
	ウイング流通センター南館	二酸化炭素換算 (8,472㎡)	0.0255 t-CO ₂ /㎡	0.0232 t-CO ₂ /㎡	-9.0 %	0.0272 t-CO ₂ /㎡	6.7 %		
実績に対する自己評価	<ul style="list-style-type: none"> ウイング流通センター南館で、平成20年度に業務取扱量が増えエネルギー使用量が大幅に増加した。 その後の省エネへの取り組みにより、平成21年度は前年比4%程度、22年度は前年比3%程度削減した。 								
その他の地球温暖化対策による温室効果ガスの削減量等	対策等の区分	目標年度（計画）			報告年度（実績）				
		取組量等	（二酸化炭素換算）		取組量等	（二酸化炭素換算）			
	森林の保全及び整備	（整備面積）	ha	（吸収量）	t	（整備面積）	ha	（吸収量）	t
	府内産の木材の利用	（利用量）	m ³	（削減量）	t	（利用量）	m ³	（削減量）	t
	自然エネルギーを利用した電力又は熱の供給	（発電量）	kwh	（削減量）	t	（発電量）	kwh	（削減量）	t
	グリーン電力の購入	（熱供給量）	GJ	（削減量）	t	（熱供給量）	GJ	（削減量）	t
	家庭における温室効果ガス排出量の削減効果分の購入	（購入量）	kwh	（削減量）	t	（購入量）	kwh	（削減量）	t
削減量等合計			*3 t		*5 t				
差引排出量 （排出合計－削減等合計）	基準年度（実績）	目標年度（計画）	増減率（計画）	報告年度（実績）	増減率（実績）				
	1 3,079.6 t	()2 2,830.4 t	-8.1 %	(**)-(*5) 2,863.3 t	-7.0 %				
地球温暖化対策に資する社会貢献活動	<ul style="list-style-type: none"> 京都「びっくり！エコ100選」実行委員会への参画と展示出展。 「DO YOU KYOTO?」ライトダウンの実施（毎月16日）。 京都府モデルフォレスト協会への参加。 								
特記事項	<ul style="list-style-type: none"> 自社としての基準を設定し、環境配慮商品の開発を推進。 プラ・リサイクルキャンペーンの実施。（お客様から不要になったブラジャーを回収し、RPFにリサイクル） 従業員対象のインナーウェア回収・リサイクル。（不要になったインナーウェアを回収し、RPFにリサイクル） 従業員から不用になった衣料品を回収し、NPOを通じて世界の難民・避難民に寄付する。 								

注1 該当する口には、レ印を記入してください。特定事業者以外の事業者の方はレ印の記入は不要です。

注2 「基準年度」とは計画期間の前年度を、「目標年度」とは計画期間の最終年度を、「報告年度」とは計画期間のうち、今回報告の対象となる年度をいいます。

注3 「事業所等排出区分」とは京都府内の事業所等の事業活動のためのエネルギーの使用に伴い発生する温室効果ガスを、「輸送車両排出区分」とは自動車運送事業者については使用の本拠の位置を京都府内とする車両の排出する温室効果ガスを、鉄道事業者については保有する貨物車両又は旅客車両の排出する温室効果ガスを、「その他排出区分」とは上記以外の京都府内における事業所等の事業活動に伴い発生する温室効果ガスをいいます。

注4 「原単位当たりの温室効果ガス排出量等」の「用途区分」には、〇〇工場、事務所などの用途を記入してください。「原単位の指標」には、分子の「二酸化炭素換算」の下に分母となる指標（生産数量、延べ床面積、走行距離等）を記入してください。

注5 「その他の地球温暖化対策による温室効果ガスの削減量等」のうち「森林の保全及び整備」の「目標年度（計画）」欄には計画期間中の目標の累計を、「報告年度（実績）」欄には実績の累計を記入してください。

注6 「特記事項」には、平成2年度（1990年度）を基準とした排出量の対比や、省エネ製品開発など他者の温室効果ガス排出削減への貢献、グリーン調達を採用、特定フロンなどの条指指定外の温室効果ガスの削減などを記入してください。